

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520485

研究課題名(和文) ユカタン・マヤ語復興活動における言語学的知見の実践と応用

研究課題名(英文) A practice and application of linguistic knowledge in the revitalization of the Yucatec Maya

研究代表者

吉田 栄人 (Yoshida, Shigeto)

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：10240285

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：ユカタン・マヤ語に関する従来の文法のほとんどはスペイン語をモデルとして作成されてきたため、スペイン語とは異なるマヤ語の文法的特性は十分に説明できなかった。マヤ語の教育に携わる者もスペイン語に関する知識しか持っていないことがほとんどであり、現代言語学によってマヤ語の文法的特性が明らかにされても、それが教育の現場に還元されることはほとんどなかった。一方で言語学者も教育用教材の作成に積極的には関わってこなかった。そこで本研究では、ユカタン・マヤ語の復興活動の中でもマヤ語教育における文法教育の改善を目的として、言語学的研究とマヤ語教育の現場との間での一つの橋渡しとしての文法解説書を作成した。

研究成果の概要(英文)：In this study, I have written a grammatical guide of the Yucatec Maya for its use in teaching and learning it. Teaching the Yucatec Maya has gained more importance than never under the promotion of the indigenous languages in Mexico. However, in traditional grammars, Spanish has been used as model in grammatical explanations. For that reason there have remained unexplained many grammatical characteristics of the Yucatec Maya. In general, most of the teachers of the Yucatec Maya do not have any other grammatical knowledge than those of Spanish, and they neither have easy access to the modern linguistic studies on the Mayan languages for its professional terminology unfamiliar to them. On the other hand, very few of the linguists have taken participation in preparing didactical materials, leaving their linguistic studies unused in teaching activities. It has been necessary to make a bridge between the advance of linguistic studies and the practice of teaching the languages in Mexico.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：危機：少数言語 ユカタン マヤ語 応用言語学

### 1. 研究開始当初の背景

ユカタン・マヤ語は植民地時代の初期から宣教師たちによる文法書が多数作成されてきただけでなく、逆受動態のような特殊な言語的特徴を持った言語であることもあり、現代の言語学においても主要な研究対象となっており、文法的知識に関しては膨大な蓄積がある。ところが、現在、メキシコ国家及び各州政府の肝いりで推し進められているユカタン・マヤ語の復興・普及活動では、用いられるべき言語モデルが確定していない。そうした活動に関わる多くのネイティブたちは、スペイン語の文法に依拠した言語モデルしかもっていないのが現状であり、現代の言語学的な研究の成果は、復興・普及活動にはほとんど活かされていない。復興・普及活動に関わる人たちに言語学的な教育を施すことも必要かもしれないが、言語学的な研究があまりに専門化し過ぎている現状では、そうした高度な専門教育には限界があるだろう。むしろ、現代言語学的な知見を応用する形で、スペイン語の文法的知識しか持たないネイティブの人たちであっても利用可能な、ユカタン・マヤ語文法ないしは文法解説書を作成することの方が効果は大きいと考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究においては、現代の言語学的研究を、現在のメキシコで行われているユカタン・マヤ語の復興・普及活動、特に文法教育に活かす応用的な実践の試みとして、スペイン語の伝統的な文法語彙を用いた新たな文法解説書を作成すること主たる目的とした。

また、作成の過程においては、大学等でマヤ語の研究を行っている研究者や学生に可能な限り多く参加してもらい、その必要性和方法論について一緒に議論することで、新たな文法モデルの普及を図ることとした。

### 3. 研究の方法

まずは、現在メキシコでユカタン・マヤ語の教育に用いられている既存の教科書ならびに文法書(辞書を含む)における文法的記述を整理・再検討した。現在、使用されているユカタン・マヤ語の主要な教科書にはメキシコ先住民庁 CDI (旧 INI) がネイティブの先住民を対象として作成しているものとスペイン語話者を対象とする *Ko'one'ex kanik maaya* プログラム用にユカタン州教育省が作成したもの、ユカタン大学付属野口英世地域文化研究所社会科学部門の Hilaria Maas Colli が研究者などの中上級者向けに作成したものなどがあるが、特に教育を受ける者の文法的知識に対するニーズを踏まえつつ、これらの教科書における文法的解説の適切性について検討した。

現代言語学によるマヤ語研究から教育文法への応用については、Victoria R. Bricker 等による動詞の分類および統語法に関する研究、並びに吉田(2009)が作成した *Diccionario*

*de la conjugación de verbos en el maya yucateco actual* (『現代ユカタン・マヤ語動詞活用辞書』)の中の「動詞活用に関する文法概説」並びに「現代ユカタン・マヤ語の動詞活用に関する形態論的一考察」(『ラテンアメリカ・カリブ研究』16号、12-25頁)をベースとして、新たな文法概説を作成することとした。

教育現場における文法教育のあり方並びに問題点を明らかにするため、実際にユカタン・マヤ語の教育が行われている授業の視察を行い、併せて教師から教育の方法と文法の扱いについて聞き取り調査を実施した。実際に調査を行ったのは、メリダ市マヤ語アカデミーが行っている市民向けマヤ語講座、ユカタン州教育省が都市部の小学生(スペイン語話者)を対象に行っている *Ko'one'ex kanik maaya* プログラム、ユカタン大学付属野口英世地域文化研究所社会科学部門が研究者向けに開講している中上級クラス、ユカタン州東部大学が中心となって行った教師向けのマヤ語専修教育プログラムである。

マヤ語文法解説書は吉田がたたき台を作成し、マヤ語教育にも関わっているマヤ語のネイティブ研究者とその内容を検討し、必要に応じて修正を加えた。この作業には、ユカタン州東部大学の Miguel Oscar Chan Dzul 氏、キンタナ・ロー州立大学の Hilario Chi Canul 研究員、キンタナ・ロー州立マヤ・インターカルチュラル大学の Angel Ucan 研究員に協力してもらった。

### 4. 研究成果

2011年の末には *Guía gramatical de la lengua maya yucateca para hispanohablantes* (「スペイン語話者のためのユカタン・マヤ語文法ガイド」)の初版を作成し、マヤ語の教育現場および学習の場で実際に使用してもらい、さらなる問題点を洗い出すことを目的として、一部の人に公開した。この初版をたたき台として、上記の協力者たちと幾度か検討を繰り返した末、2013年3月に改訂版を作成し、冊子として印刷(200部)し、マヤ語教育を行っているユカタン州およびキンタナ・ロー州の関係諸機関に配布した。併せて、PDF版をインターネット(Facebook, Academia.edu, Researchmap)上に公開した。

同文法ガイドの構成は次のとおりである。

1. El alfabeto y la ortografía (アルファベットと表記法)
  - 1.1 El alfabeto (アルファベット)
  - 1.2 Proceso fonológico del maya yucateco (音韻プロセス)
  - 1.3 Cómo escribir (いかに表記すべきか)
2. Términos y conceptos gramaticales (文法用語と概念)
  - 2.1 Elementos gramaticales (文法上の単位)
  - 2.2 Estructura sintáctica (文型)
  - 2.3 El sujeto y el tema (主語と主題)

- 2.4 Voz (態)
- 2.5 Tiempo y aspecto (時間とアスペクト)
- 2.6 Modo (法)
- 3. Sustantivos (名詞)
  - 3.1 Sustantivo verbal (動詞の名詞)
  - 3.2 Sufijos nominales (名詞接尾辞)
  - 3.3 Sustantivos compuestos (複合名詞)
  - 3.4 Características gramaticales del sustantivo (名詞の文法的特徴)
    - 3.4.1 Internación de "es" (動詞「である」の内蔵化)
    - 3.4.2 Pluralidad (複数性)
    - 3.4.3 Clasificador de sustantivos (分類詞)
    - 3.4.4 Género (性)
- 4. Adjetivos (形容詞)
  - 4.1 Sufijos adjetivales (形容詞接尾辞)
  - 4.2 Características de los adjetivos (形容詞の特徴)
- 5. Pronombres (代名詞)
  - 5.1 Pronombres personales (人称代名詞)
    - 5.1.1 Juego A y juego B (A セットと B セット)
    - 5.1.2 Pronombres nominativos (主格代名詞)
    - 5.1.3 Pronombres de objeto indirecto (間接目的格代名詞)
    - 5.1.4 Pronombres posesivos (所有代名詞)
    - 5.1.5 Pronombre reflexivo (再帰代名詞)
  - 5.2 Pronombres no personales(非人称代名詞)
    - 5.2.1 Pronombres demostrativos(指示代名詞)
    - 5.2.2 Pronombres locativos (所格代名詞)
    - 5.2.3 Pronombres interrogativos(疑問代名詞)
    - 5.2.4 Pronombres indefinidos (不定代名詞)
- 6. Verbos (動詞)
  - 6.1 Estructura básica del sintagma verbal(動詞部の基本構造)
  - 6.2 El tipo y la voz de verbos(動詞のタイプと態)
    - 6.2.1 Verbos transitivos (他動詞)
    - 6.2.2 Verbos intransitivos (自動詞)
  - 6.3 Las voces y su tronco verbal (態と語幹)
  - 6.4 Inflexión verbal (動詞の活用)
    - 6.4.1 Sufijos inflexionales (活用語尾)
    - 6.4.2 Inflexión verbal según el tipo de verbos (動詞のタイプによる活用)
    - 6.4.3 Sufijos de modalidad: *-bil* y *-Vkbal* (様態を表す語尾)
  - 6.5 El aspecto y partículas de modalidad (アスペクトと様態辞)
    - 6.5.1 Partículas *t* y *j* para el aspecto completivo (完了アスペクト様態辞 *t* と *j*)
    - 6.5.2 Partículas de modalidad para el aspecto incompletivo (未完了アスペクト様態辞)
- 7. El modo (法)
  - 7.1 AJAB
    - 7.1.1 Modo indicativo (直接法)

- 7.1.2 Modo condicional (条件法)
- 7.2 IKAL
  - 7.2.1 Modo indicativo (直接法)
  - 7.2.2 Modo infinitivo (不定法)
    - 7.2.2.1 Uso nominal (名詞的用法)
    - 7.2.2.2 Complemento de verbos causativos y de percepción (使役動詞および知覚動詞の補語)
    - 7.2.2.3 Oración prohibitiva (否定文)
    - 7.2.2.4 Uso sustantival (実体詞的用法)
  - 7.2.3 Modo subordinado (従属法)
    - 7.2.3.1 Uso adverbial (de verbos intransitivos) (副詞的用法: 自動詞の場合)
    - 7.2.3.2 Construcción con *bin* + A + *ka'aj* (de verbos intransitivos) (*bin*+A+*ka'aj* 構文: 自動詞の場合)
    - 7.2.3.3 Construcción con *kAn* (*kAn* 構文)
  - 7.2.4 Modo del agente adelantado (verbos transitivos) (動作主前置法: 他動詞の場合)
- 7.3 NULAK
  - 7.3.1 Modo de subordinación directa(直接従属法)
    - 7.3.1.1 Uso adverbial (de verbos transitivos)(副詞的用法: 他動詞の場合)
    - 7.3.1.2 Construcción con *bin* + A + *ka'aj* (de verbos transitivos)(*bi*+A+*ka'aj* 構文: 他動詞の場合)
    - 7.3.1.3 Construcción con *kAn* (de verbos transitivos) (*kAn* 構文: 他動詞の場合)
  - 7.3.2 Modo de subordinación indirecta(間接従属法)
    - 7.3.2.1 Subordinación nominal (名詞的従属)
    - 7.3.2.2 Subordinación adverbial (副詞的従属)
    - 7.3.2.3 Subordinación adjetival (形容詞的従属)
  - 7.3.3 Modo del agente adelantado(動作主前置法)
  - 7.3.4 Modo del tiempo imaginario (想定時間法)
- 7.4 MAJAN
- 7.5 NULEN
- 8. Sufijos especiales de verbos (特殊な動詞接尾辞)
  - 8.1 Sufijos *-ik* e *-il* del evento pasado (過去の出来事を表す接尾辞-*ik* と-*il*)
  - 8.2 Sufijo *-bil* para la acción sufrida(行為の被害性を表す接尾辞-*bil*)
  - 8.3 Sufijo *-Vkbal* (接尾辞-*Vkbal*)
- 9. Estructura sintáctica (文型)
  - 9.1 El caso gramatical (文法上の格)
  - 9.2 Estructura de base (VS/VOS) (基本文型: VS/VOS)
  - 9.3 Oraciones enfatizadas con el sufijo topicalizador *-e'* (接尾辞-*e'*による話題化文)
  - 9.4 Desplazamiento de complemento directo (OVS) (直接目的語の移動: OVS)

- 9.5 Desplazamiento de sujeto (SV/SVO) (主語の移動: SV/SVO)
- 9.6 Paradigma de la estructura sintáctica (文型の統語構造)
- 10. El tiempo gramatical (時制)
  - 10.1 Tiempo absoluto y tiempo relativo (絶対時制と相対時制)
  - 10.2 El tiempo y el aspecto (時制とアスペクト)
  - 10.3 Los tiempos de NULAK (NULAKの時制)
  - 10.4 El tiempo en oraciones subordinadas(従属文における時制)
  - 10.5 El futuro (未来)
- 11. Expresiones especiales (特殊表現)
  - 11.1 Yan (動詞「ある・いる・持つ」)
  - 11.2 k'ajool, ojel, k'aat (動詞「知り合いである・知っている・欲しい」)
  - 11.3 ko'ox y ko'oten(動詞「～しよう」と「来なさい」)
  - 11.4 tu'ubul/k'a'ajal (動詞「忘れる」と「始まる」)

本文法ガイドの特徴は、動詞の用法を時制と法というインド・ヨーロッパ系の言語の文法がとりがちな動詞の分類から整理するのではなく、まず日本語の動詞活用のように動詞の変化形(IKAL, AJAB, NULAK, MAJAN, NULENの5つ)を整理し、その変化形にどのような文法的機能(主にアスペクトとモダリティ)が付与されるかを説明したことと、その用法が語順とどのような関係にあるかという点から説明していることである。

公開から1年近く経った2014年5月7日現在で、同ガイドへのアクセス数は2,500回を超えている。検索サイト大手のGoogleにおいて gramatica maya をキーワードにして検索しただけで、上位から3番目位には Academia.edu にアップロードしたPDFへのリンクが現れることからしても、同ガイドは現在のマヤ語教育および学習においてかなり広く知られる教材となってきた。また、Academia.edu にアップロードした同ガイドPDFへのアクセスのほとんどがメキシコからのものであることも、それが教育・学習用の資料として利用されていることを示している。

2014年の3月には同ガイドについてもっと多くの人たちに知ってもらうため、ガイド作成に関わってもらった協力者たちと共に、いくつかの講演会を実施した。ユカタン州立東部大学とキンタナ・ロー州立マヤ・インターカルチュラル大学ではマヤ語の授業の受講者を対象にマヤ語の新しい文法モデルについて授業を行った。また、キンタナ・ロー州立大学では同ガイドの出版報告会を実施した。なお、同ガイドは、2013年10月にも同大学で出版報告が行われており、その時の様

子はキンタナ・ロー州の新聞 Novedades (<http://sipse.com/novedades/presentan-obras-relativas-a-lengua-maya-en-la-uqroo-56518.html>) およびキンタナ・ロー大学のHP(<http://saladeprensa.uqroo.mx/noticias/1590-presentan-publicaciones-en-ciencias-de-la-salud/>)に掲載されている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)  
Shigeto Yoshida, "La ortografía del maya 'reducido' en Yucatan colonial, *Latin American Caribbean Studies*, no.20, pp. 1-20. 査読有

〔学会発表〕(計1件)  
Shigeto Yoshida, パネル報告 "El tiempo, el aspecto y la modalidad en la conjugación de verbos en el maya yucateco", Primer Coloquio Internacional de Estudios de Maya Yucateco (2012年10月04日~2012年10月05日, El Colegio de Mexico.)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者  
吉田 栄人(YOSHIDA, Shigeto)  
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授  
研究者番号: 10240285

(2)研究分担者  
( )

研究者番号:

(3)連携研究者  
( )

研究者番号: